

国語 第6学年 表現に着目して読み、考えたことを伝え合おう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、模型とまちに関わる描写や繰り返される表現に着目し、作品の全体像を考える。物の描写も丁寧に読み、人物の受け止め方や場面の前後と結び付けて表現の効果を考える。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答が出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 「表現に着目して読み、考えたことを伝え合おう」 教材名 「模型のまち」

2 単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気づき、描写の言葉を確認められる。描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えられる。言葉の働きを確認め、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①比喩や反復などの表現の工夫に気づき、描写の言葉を確認めている。（〔知識及び技能〕(1)ク）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えている。（C(1)エ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

模型とまちに関わる描写や繰り返される表現に着目し、作品の全体像を考える。物の描写も丁寧に読み、人物の受け止め方や場面の前後と結び付けて表現の効果を考える。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

印象に残った表現と、その前後の行動や情景を組にする。別の平易な言い方と比べ、原文で生まれる印象を説明する。語句の置換は比較のためで、本文の改変版を配布しない。おおむね満足できる状況は、描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認める支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

第1次 第1時：○全文を読み、印象に残った描写と初めの考えを記録する。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○人物の行動と模型・まちの描写を場面ごとに整理する。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時（本時）：○着目した表現の印象と前後の場面の関係を説明し合う。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第4時：○作品全体と表現の効果について文章にまとめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第5時：○文章を交流し、根拠の違いを受けて読み直す。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えられる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認し、自分の最初の考えを短く書く。

○「模型やまちを表す言葉は、どんな印象を与えていますか。その印象は、前後の人物の様子や出来事とどう関係していますか」

【めあて】模型とまちに関わる描写や繰り返される表現に着目し、作品の全体像を考える。

予想される児童の反応：・同じ物の描写でも、場面によって印象が異なる。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「模型やまちを表す言葉は、どんな印象を与えていますか。その印象は、前後の人物の様子や出来事とどう関係していますか」

自分で言葉や本文の箇所を確認し、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。

予想される児童の反応：・同じ物の描写でも、場面によって印象が異なる。

・繰り返される言葉が作品全体の感じを作っている。

・友達とは別の描写を大事に読んだ。

指導上の留意点：印象に残った表現と、その前後の行動や情景を組にする。別の平易な言い方と比べ、原文で生まれる印象を説明する。語句の置換は比較のためで、本文の改変版を配布しない。

想定する難しさ：感想を雰囲気だけで述べ、表現を示せない。象徴の意味を一つに決めつける。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思①描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えている。(発言と学習記録)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・友達とは別の描写を大事に読んだ。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態①(学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「模型やまちを表す言葉は、どんな印象を与えていますか。その印象は、前後の人物の様子や出来事とどう関係していますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

